

はじめに

史跡 飛鳥宮跡は、飛鳥時代の宮殿遺跡です。これまでの調査研究で、Ⅰ～Ⅲ期の3時期の宮殿遺構が重複して存在することが判明しています。Ⅰ期遺構が舒明天皇の飛鳥岡本宮、Ⅱ期遺構が皇極天皇の飛鳥板蓋宮、Ⅲ期遺構のうちⅢ-A期が斉明天皇・天智天皇の後飛鳥岡本宮、Ⅲ-B期が天武天皇・持統天皇の飛鳥浄御原宮と考えられています。

今回の調査は、奈良県による飛鳥宮跡・飛鳥京跡苑池整備活用事業に伴うもので、飛鳥京跡第191次調査にあたります。調査区は2009(平成21)年度調査区(第165次)の南隣に位置し、飛鳥宮跡Ⅲ期遺構の内郭の北西隣接地にあたります。調査の主要な目的は、第165次調査で検出した大型掘立柱建物SB0934の構造と規模を確認することです。

発掘調査の成果

(1) 主な検出遺構

①大型掘立柱建物 SB0934 第165次調査では、吉野川分水の両側の断面において掘立柱建物の柱穴を確認したのみでしたが、東西南北に廂が付く四面廂建物であり、桁行11間(約35.4m)×梁行5間(約15.0m)の大規模な東西棟になる可能性が想定されていました。今回の調査では、SB0934の南東部において平面的調査を初めて行い、第165次調査の想定通りに柱抜取穴および柱穴を確認し、建物の構造と規模が確定しました。

柱掘方の平面形は隅丸方形で規模は一辺約1.7m、深さ約1.7mで、いずれも柱は全て抜き取られていました。柱抜取穴には、径50～60cmの大型の石が顕著に含まれるという特徴があり、柱抜取穴を埋める際に入れられたと考えられます。柱抜取穴から推定される柱間寸法は、身舎、廂ともに約3.0m(10尺)を基本とし、桁行方向では身舎の最も外側の両脇間のみが約4.2m(14尺)となります。

②石組溝 SD02401 調査区東側で検出した南北方向の石組溝で内幅は約90cmあり、底石に直径約10～25cmの小礫、側石には直径約40cmの石がもちいられています。石組溝SD02401は大型掘立柱建物SB0934の柱穴および柱抜取穴に壊されており、今回の調査では断続的に3箇所を総長約2m分を検出

しました。

SD02401の南延長線上には、1967(昭和42)年度の第13次調査2区の石組溝SD6717、1965(昭和40)年度の第7次調査区(2023(令和5)年度第190次調査で再検出)の石組溝SD6515が位置しています。その特徴から一連の石組溝と考えられ、その総延長は南北約60mとなります。

今回の調査では、SD02401はSB0934の柱穴および柱抜取穴と重複し、これらに壊された状況を確認しました。このことから、SD02401はSB0934より古い時期の遺構であることがわかりました。

(2) 遺構の時期

造営方位や既往の調査で検出された遺構との関係、遺構同士の重複関係から、①大型掘立柱建物SB0934は飛鳥宮跡Ⅲ期遺構、②石組溝SD02401はⅡ期遺構に属すると考えられます。SB0934は、建物の構造と規模がⅢ-B期のエビノコ大殿と類似することから、Ⅲ-B期の遺構である可能性が高いと考えられます。また、SD02401のように側石に比べて小さな石材を底石にもちいることは、Ⅱ期の特徴であることがこれまでの飛鳥宮跡での調査によって判明しています。

まとめ

大型掘立柱建物 SB0934 の評価 大型掘立柱建物SB0934の南東部を初めて平面的に検出し、東西南北に廂が付く四面廂建物で桁行11間(約35.4m)×梁行5間(約15.0m)の飛鳥宮最大級の大規模な東西棟になることが確定しました。これまでに判明している飛鳥宮最大の建物は、内郭の南東外に位置するエビノコ郭内にあるエビノコ大殿SB7701(四面廂建物：桁行9間(約29.2m)×梁行5間(約15.3m))で、SB0934はこれに匹敵します。

四面廂建物で身舎の両脇間のみが他の柱間に比べて広く作られるというSB0934の特徴は、平城宮内裏Ⅰ期御在所正殿SB4700およびSB460などと共通しており、内裏に関わる重要な施設と考えられます。大型掘立柱建物SB0934の平面構造は、平城宮の内裏建物の先駆けと評価でき、後の平城宮の内裏へとつながる要素を飛鳥宮で確認できたことは極めて重要な成果といえます。

史跡 飛鳥宮跡(飛鳥京跡第191次調査) 現地説明会資料

2024年11月30・12月1日 奈良県立橿原考古学研究所 〒634-0065 奈良県橿原市畝傍町1番地
Tel.0744-24-1101 <http://www.kashikoken.jp> (過去の現地説明会資料は、こちらからご覧いただけます。)



史跡 飛鳥宮跡 (飛鳥京跡第191次調査)

Asuka Palace Site (National Historic Site)

現地説明会資料

2024年11月30日(土)・12月1日(日)



JAPAN CULTURAL EXPO 20



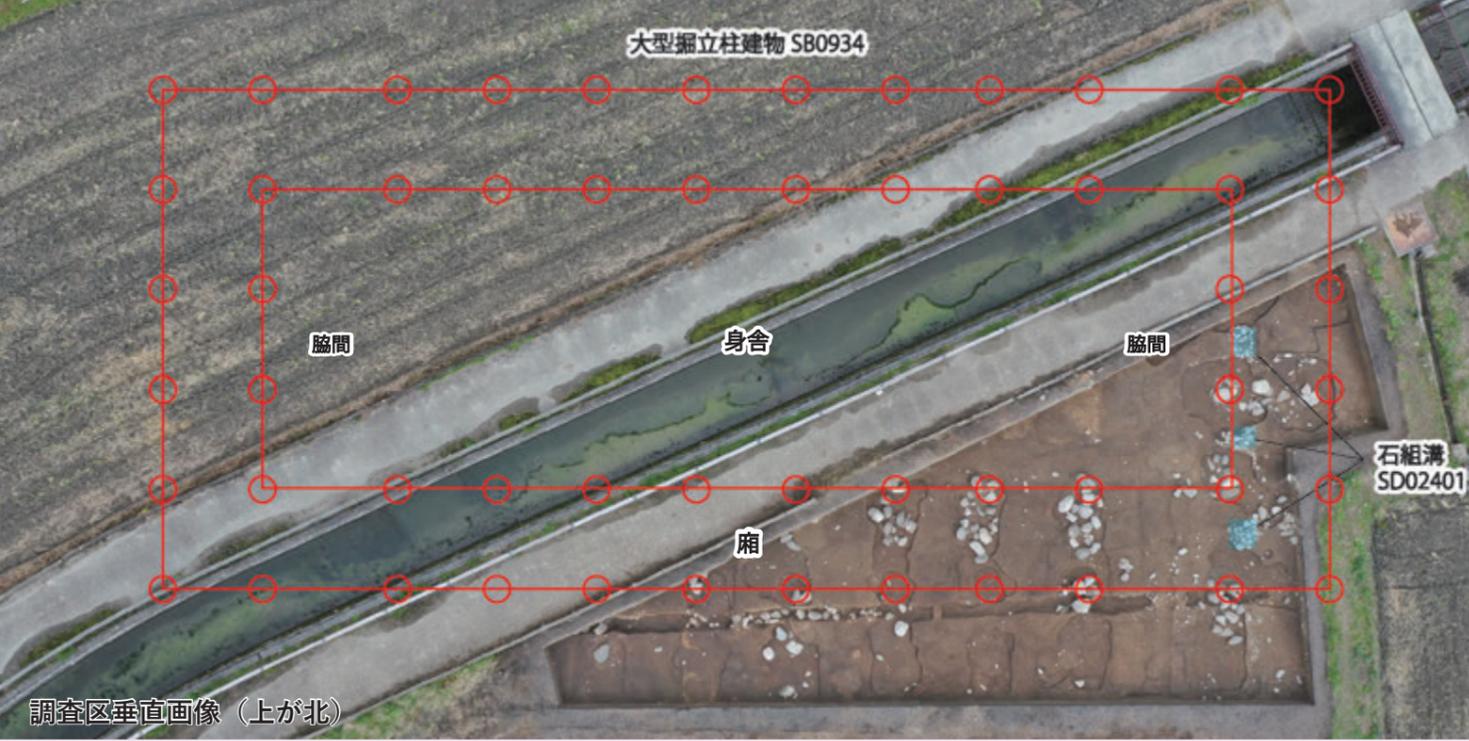
令和6年度日本博2.0事業(委託型)

主催:文化庁

独立行政法人 日本芸術文化振興会

奈良県立橿原考古学研究所

調査区全景(西から)



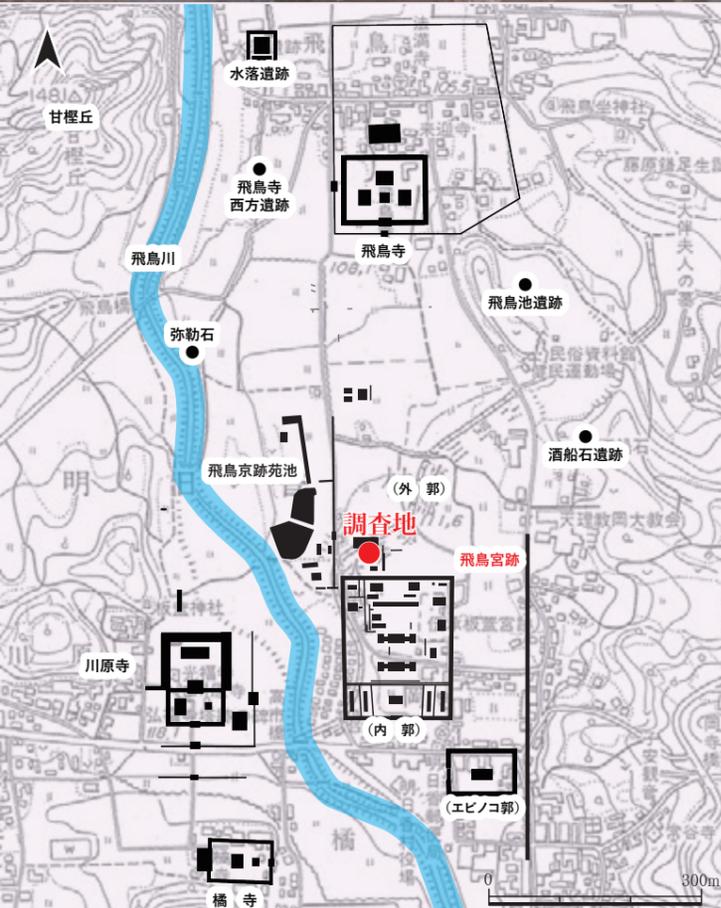
調査区垂直画像（上が北）



大型掘立柱建物 SB0934（南東から）



石組溝 SD02401 と大型掘立柱建物 SB0934 の柱穴（北から）

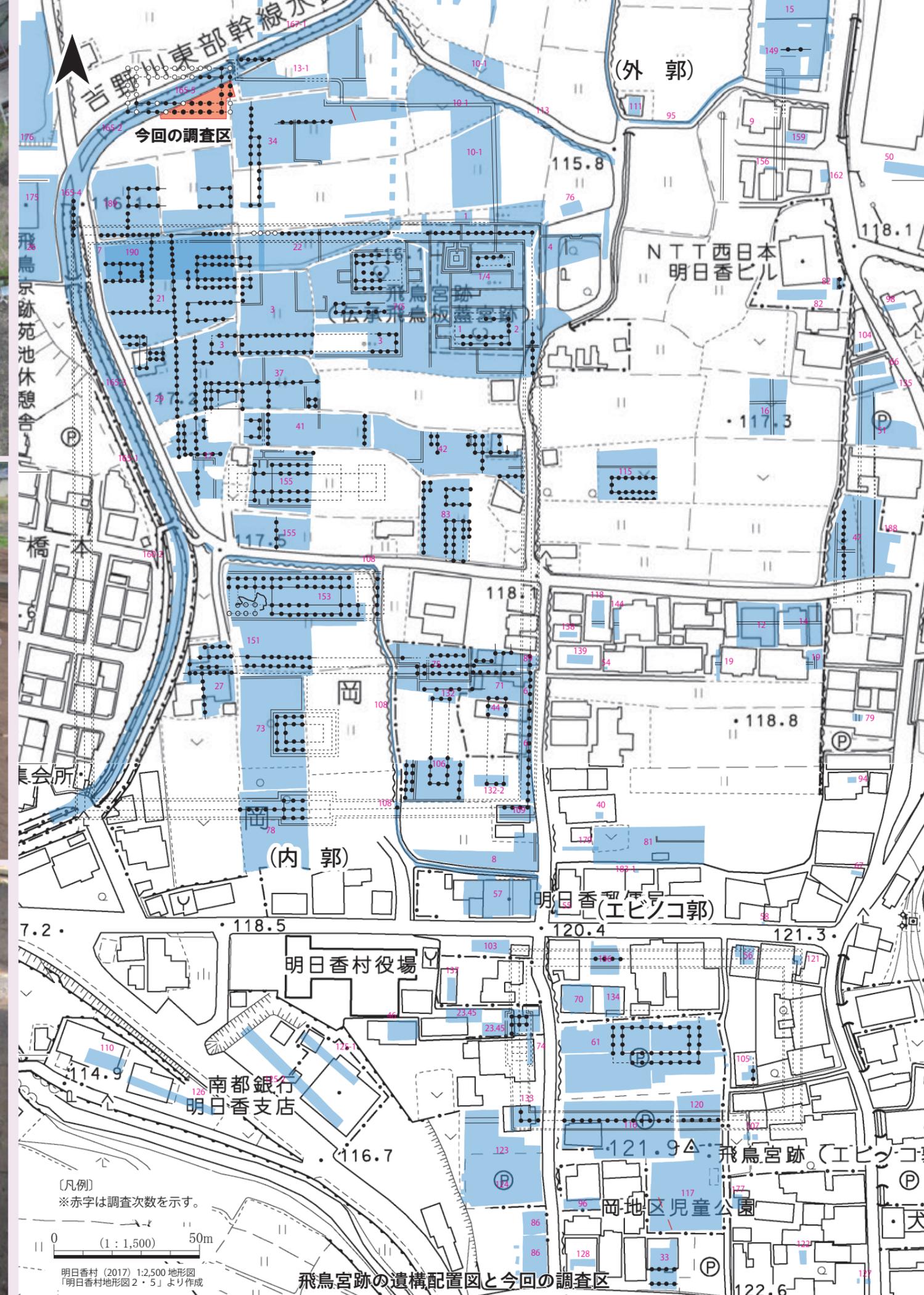


飛鳥宮跡と周辺の主要遺跡

奈良県 (1997) 『奈良県都市計画図』 14・17 をもとに作成



大型掘立柱建物 SB0934 の柱穴（165 次調査時）



〔凡例〕
※赤字は調査次数を示す。

0 50m
(1 : 1,500)

明日香村 (2017) 1:2,500 地形図
『明日香村地形図 2・5』より作成

飛鳥宮跡の遺構配置図と今回の調査区